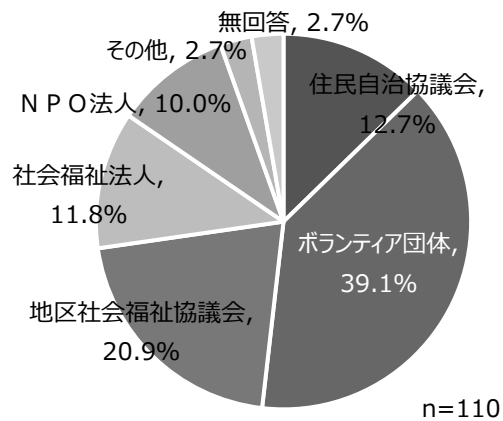

調査2 関係団体アンケート調査

問 1 貴団体のことについて

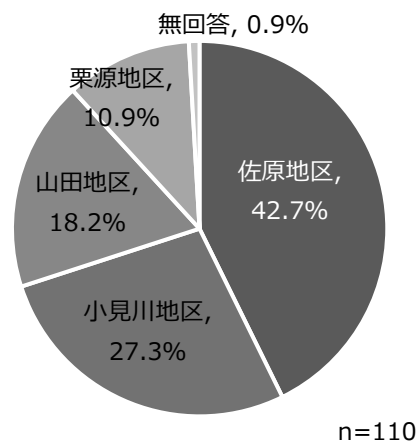
- (1) 貴団体の名称をご記入ください
- (2) 貴団体の種別を教えてください(単一回答)

「ボランティア団体」という回答が最も多く 39.1%、次いで、「地区社会福祉協議会（20.9%）」、「住民自治協議会（12.7%）」、「社会福祉法人（11.8%）」、「NPO 法人（10.0%）」の順となっています。



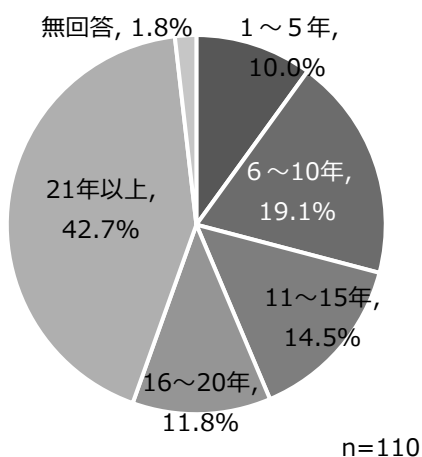
- (3) 貴団体がある地区を教えてください(単一回答)

「佐原地区」という回答が最も多く 42.7%、次いで、「小見川地区（27.3%）」、「山田地区（18.2%）」、「栗源地区（10.9%）」の順となっています。



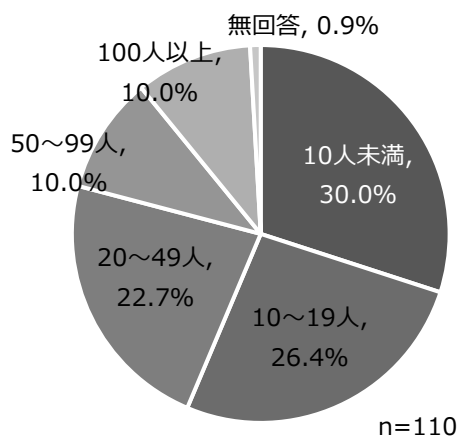
(4) 貴団体の活動年数を教えてください(単一回答)

「21年以上」という回答が最も多く42.7%、次いで、「6～10年（19.1%）」、「11～15年（14.5%）」、「16～20年（11.8%）」、「1～5年（10.0%）」の順となっています。



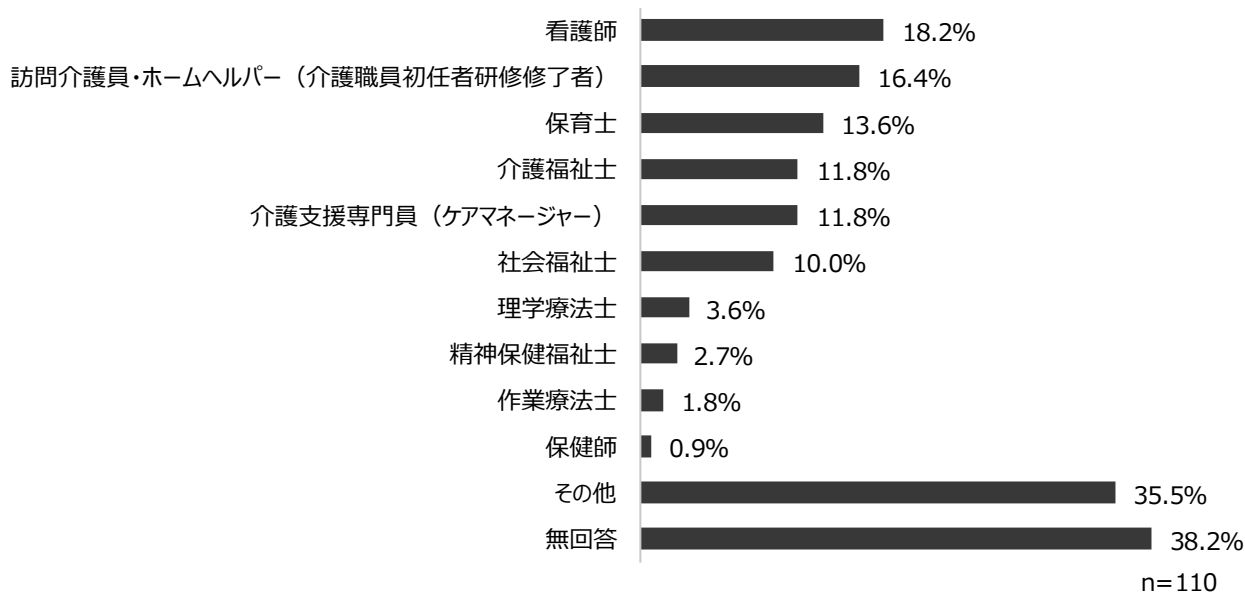
(5) 貴団体の活動人数（名簿登録者数）を教えてください(単一回答)

「10人未満」という回答が最も多く30.0%、次いで、「10～19人（26.4%）」、「20～49人（22.7%）」、「50～99人（10.0%）」、「100人以上（10.0%）」の順となっています。



(6) 貴団体には次のような専門職の方が所属していますか(複数回答)

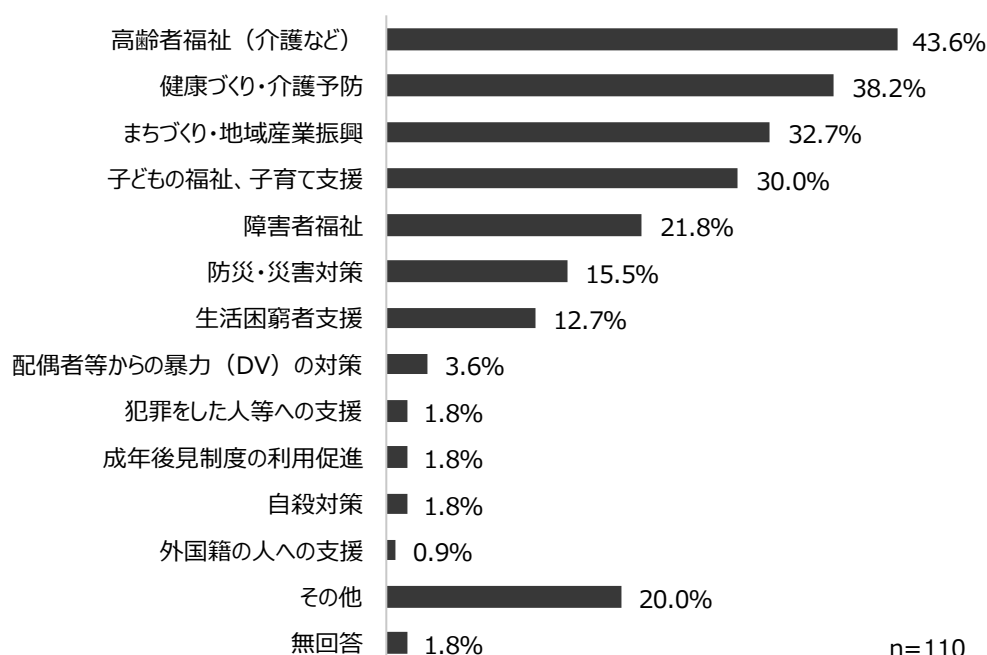
「看護師」という回答が最も多く18.2%、次いで、「訪問介護員・ホームヘルパー（介護職員初任者研修修了者）（16.4%）」、「保育士（13.6%）」、「介護福祉士（11.8%）」、「介護支援専門員（ケアマネージャー）（11.8%）」、「社会福祉士（10.0%）」の順で回答が多くなっています。「その他」の回答としては、「専門職の所属はなし」、「民生委員」、「教員」、「栄養士」などが挙げられています。



問 2 貴団体の活動について

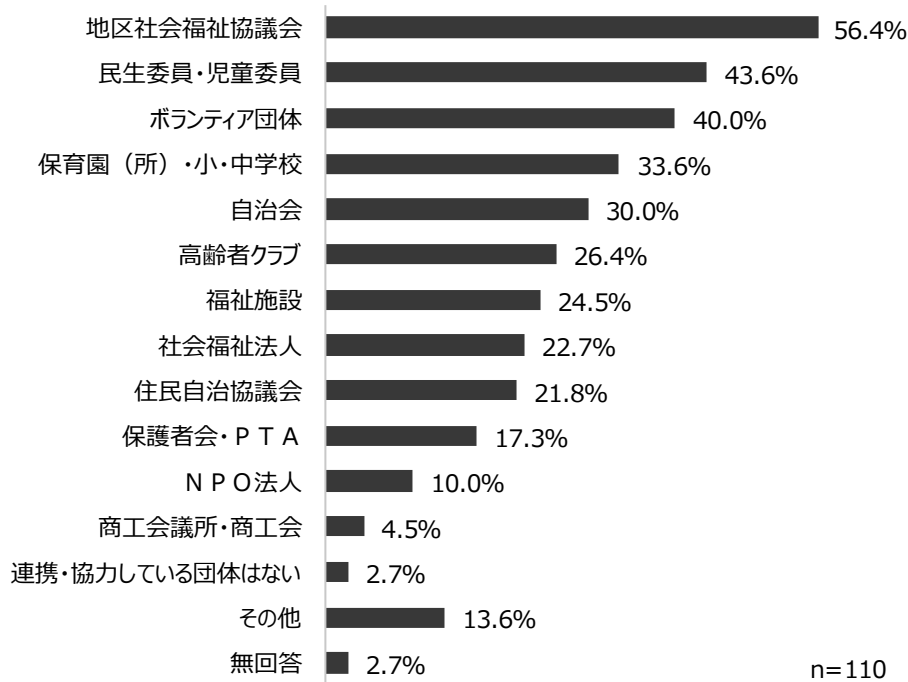
(7) 貴団体では現在どのような分野の活動に取り組んでいますか(複数回答)

「高齢者福祉（介護など）」という回答が最も多く43.6%、次いで、「健康づくり・介護予防（38.2%）」、「まちづくり・地域産業振興（32.7%）」、「子どもの福祉、子育て支援（30.0%）」、「障害者福祉（21.8%）」、「防災・災害対策（15.5%）」、「生活困窮者支援（12.7%）」の順で回答が多くなっています。「その他」の回答としては、「高齢者世帯等への配食サービス」が最も多く挙げられ、そのほか「環境美化」、「イベント開催による地域交流」、「見守り」などが挙げられています。



(8) 貴団体では、次のような団体・機関と連携・協力体制がありますか(複数回答)

「地区社会福祉協議会」という回答が最も多く 56.4%、次いで、「民生委員・児童委員 (43.6%)」、「ボランティア団体 (40.0%)」、「保育園 (所)・小・中学校 (33.6%)」、「自治会 (30.0%)」、「高齢者クラブ (26.4%)」、「福祉施設 (24.5%)」、「社会福祉法人 (22.7%)」、「住民自治協議会 (21.8%)」、「保護者会・PTA (17.3%)」、「NPO 法人 (10.0%)」の順で回答が多くなっています。「その他」の回答としては、「医療機関」、「子育て世代包括支援センター」、「保護司会、更生保護女性会」、「香取 CCC」、「香取市ろうあ協会」などが挙げられています。



(9) 他の団体と連携・協働していく上で、どのような困難・難しさがありますか

情報共有、コミュニケーションに関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報の共有。 ■ 先方に活動を十分伝えきれず理解、協力いただくのが難しい。 ■ 区長等の任期が短く、コミュニケーションが取りづらい。 ■ 団体の代表者や担当者の交代など、運営体制が変わると、継続してきた関係が保てなくなるケースがある。 ■ 地区ごと、団体ごとにそれぞれ特性があり、それを理解し、行事を進めることが難しい。 ■ 個人情報保護の関係から住民の情報を共有できないため、連携が難しい。 ■ 誰がどのような活動をしているのか不明で、代表者の連絡先が分からない。 ■ 意見の相違がある。 ■ 各団体との役員連絡協議会が行われていないため、面識がなく各団体との連携が難しい。 ■ 相手側がどんな団体か、どんな活動をしているのかが分からない。
日程や会場の調整に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域のサークル活動や団体と会場が重複することがあり、調整が必要なこと。 ■ 同じようなイベントを開催していること。

<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業実施に向けての計画立案の際の日程調整。 ■ 事業や会議等の開催における日程調整。
活動の場、機会に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 団体間の交流の場がない。 ■ とともに話し合える場が乏しい。 ■ ボランティア団体同士が集まる機会が少なく、情報交換が乏しい。 ■ 特にコロナ禍において活動場所の確保が難しい。
人材に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 年齢の高齢化、若い方々の協力がいないこと。 ■ メンバーが高齢化しているため、参加できない行事がある。 ■ ボランティアや役員が重複している。 ■ 連携を図ろうとしたが動きがにぶい。教育・研修が必要。
新型コロナウイルスによる制約
<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染症の対応のため、行事等が開催できない。また、連携についても今までのように取り組むことが難しい。 ■ 新型コロナウイルス感染症のため、地域の方々との交流が困難になり、情報も入りにくい状況になっている。 ■ 感染対策をとりながら事業を進めるのが困難であった中、地域内外の他事業所との連携まで進めることはできなかった。 ■ 新型コロナウイルス対応のため活動を自粛しており、そのため全体的にコミュニケーション不足になっている。関係が希薄になった。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ■ 「障害福祉」に対する理解。障害分野に対して、関わり方が分からないため不安や抵抗を感じている事業所があると聞いている。 ■ 何か問題や伝えたいことがあった場合、すべての関係団体に連絡しなければならないこと。 ■ 情報を集めて全体に伝えてくれる窓口のようなものがない。 ■ 誰が主導して関係団体をコーディネートしていくかが課題。福祉事業に関わる人や地域自治の役員を引き受けている人はすでに多忙な状況。 ■ 会議の進行または発言時において、こちら側が手話通訳の表現を見ながら対応することを考慮して、ゆっくり進行してほしい。

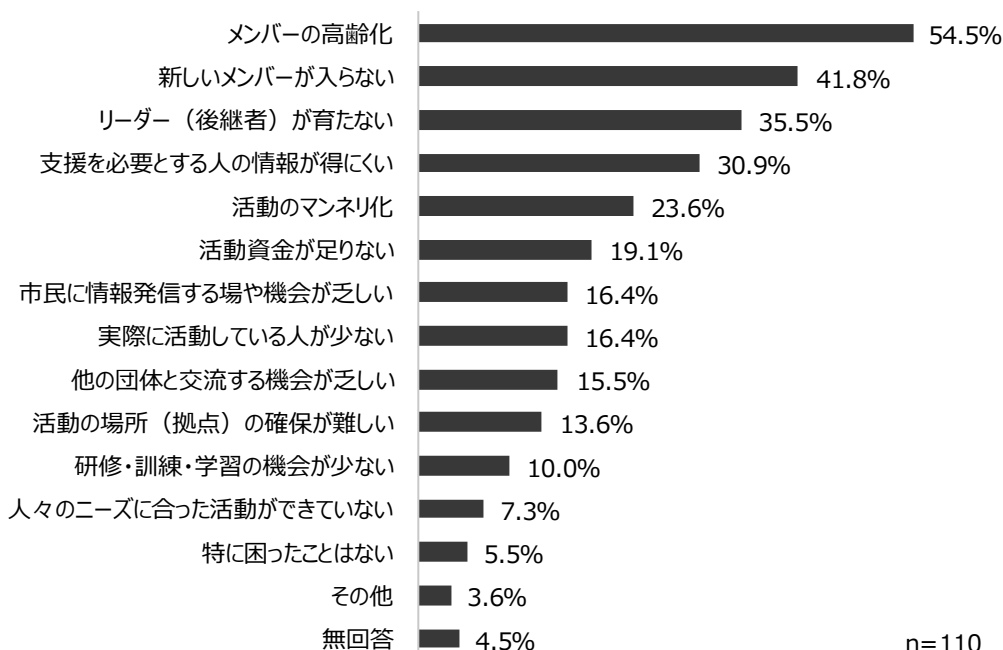
(10) 他の団体との連携・協働を進めるために、香取市に求めることはありますか

活動の場、機会に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 団体間の交流の場、懇談会等の機会を作ってほしい。 ■ 同じような活動をしている団体との交流、情報交換の場を作ってほしい。 ■ 他の団体との連携のため、異業種交流会のようなものがあるとよい。 ■ まちづくり協議会、自治会、自主防災会等と情報交換する機会（場）を定期的に設けてほしい。 ■ 閉校した学校を活用できるようにしてほしい。
情報提供に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人情報の保護は必要だと思うが、地区の高齢者の名簿を民生委員の方だけにでも渡しておいてほしい。 ■ 70歳以上の方を対象に福祉事業を行っているが、市に依頼しても対象者の名簿を提供してもらうことが難しい。支援対象者の把握が困難な状況。 ■ 協働に必要な情報共有。なんでも「個人情報」として非公開にされる中で協働は難しい。
人材育成に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 活動を円滑に推進する人材の育成や人材の発掘。 ■ 組織が異なるとお互いの知識・レベルの違いがありすぎて連携が難しい。人材育成のため研修会を開催してほしい。 ■ 手話通訳者の育成、制度の充実。

連絡調整に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地区ごとの交流を市職員が橋渡ししてくれるとありがたい。 ■ 各団体との役員連絡会議を年に3～4回開催してもらいたい。
広報に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 市からのお知らせは広く周知できるような仕組みが必要。 ■ 認知症カフェや家族の会があることを広報誌等で宣伝してほしい。
活動資金に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要とされる活動を行っている団体に対しては、少額でもよいので資金援助をしてほしい。 ■ 職員確保に向けた補助金などがあるとありがたい。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ■ 同じような活動をしている組織の見直し。 ■ 地域の課題を見える化して、その解決に向けては地域の資源に任せてほしい。 ■ 障害のある方の地域生活の受入体制づくり、障害についての正しい理解、身近な地域の中での相談場所の確保、障害があってもなくても年齢や本人のニーズに見合った柔軟な支援やサービスが受けられるためのネットワーク形成が必要。 ■ 災害発生時の連携・協働について、高齢者の入所施設では、特に要介護者・要支援者などの避難者が多数になった場合、対応が困難となるため支援をお願いしたい。 ■ 新型コロナウイルス感染症対策に一定の区切りをつけてほしい（例えば、手指消毒、マスク着用、換気などの方法で一定の基準を満たせば施設の面会や見学を可能とするような宣言、ガイドラインの発表など）。

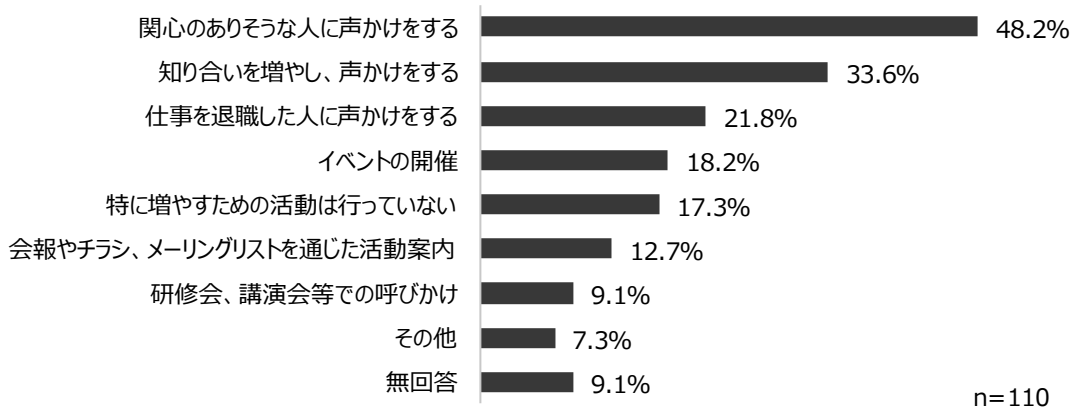
(11) 貴団体等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか(複数回答)

「メンバーの高齢化」という回答が最も多く54.5%、次いで、「新しいメンバーが入らない(41.8%)」、「リーダー(後継者)が育たない(35.5%)」、「支援を必要とする人の情報が得にくい(30.9%)」、「活動のマンネリ化(23.6%)」、「活動資金が足りない(19.1%)」、「市民に情報発信する場や機会が乏しい(16.4%)」、「実際に活動している人が少ない(16.4%)」、「他の団体と交流する機会が乏しい(15.5%)」、「活動の場所(拠点)の確保が難しい(13.6%)」、「研修・訓練・学習の機会が少ない(10.0%)」の順で回答が多くなっています。



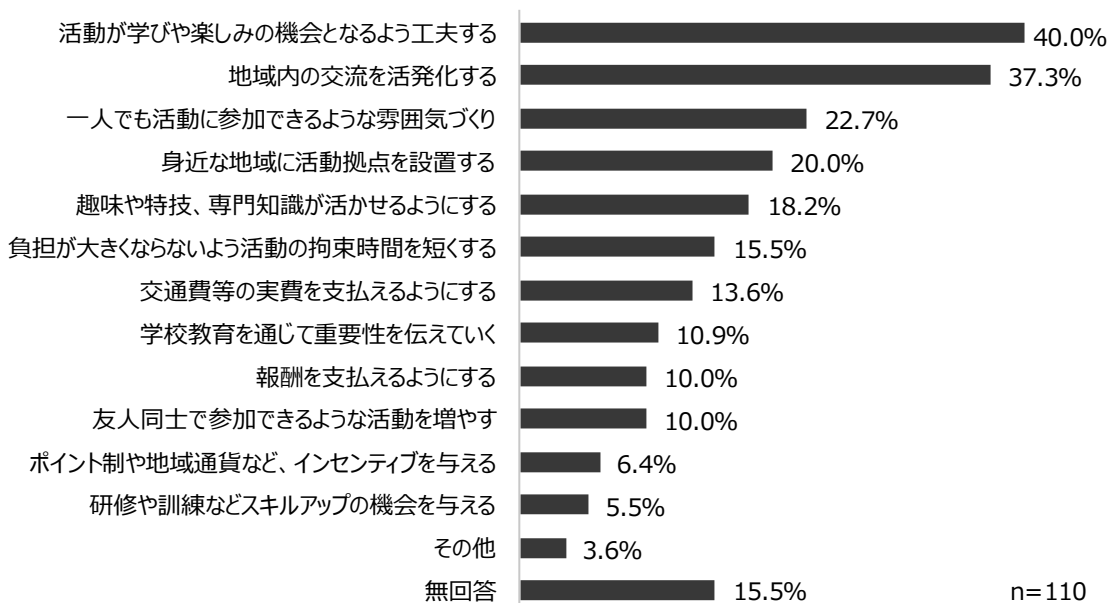
(12) 活動の新たな担い手を増やすために、貴団体ではどのようなことに取り組んでいますか(複数回答)

「関心のありそうな人に声かけをする」という回答が最も多く48.2%、次いで、「知り合いを増やし、声かけをする(33.6%)」、「仕事を退職した人に声かけをする(21.8%)」、「イベントの開催(18.2%)」、「特に増やすための活動は行っていない(17.3%)」、「会報やチラシ、メールリストを通じた活動案内(12.7%)」の順で回答が多くなっています。「その他」の回答としては、「実習生の受入れ」、「ポスターの掲示」、「学園を通じた卒業生の勧誘」などが挙げられています。



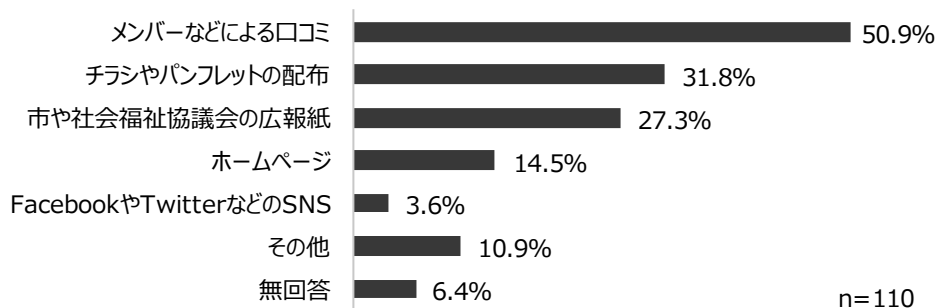
(13) 市民が自ら地域の課題を解決するための主体性・自主性を養うために、どのようなことが必要だと思いますか(3つまで)

「活動が学びや楽しみの機会となるよう工夫する」という回答が最も多く40.0%、次いで、「地域内の交流を活発化する(37.3%)」、「一人でも活動に参加できるような雰囲気づくり(22.7%)」、「身近な地域に活動拠点を設置する(20.0%)」、「趣味や特技、専門知識が活かせるようにする(18.2%)」、「負担が大きくなるよう活動の拘束時間を短くする(15.5%)」、「交通費等の実費を支払えるようにする(13.6%)」、「学校教育を通じて重要性を伝えていく(10.9%)」、「報酬を支払えるようにする(10.0%)」、「友人同士で参加できるような活動を増やす(10.0%)」の順で回答が多くなっています。



(14) 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか(複数回答)

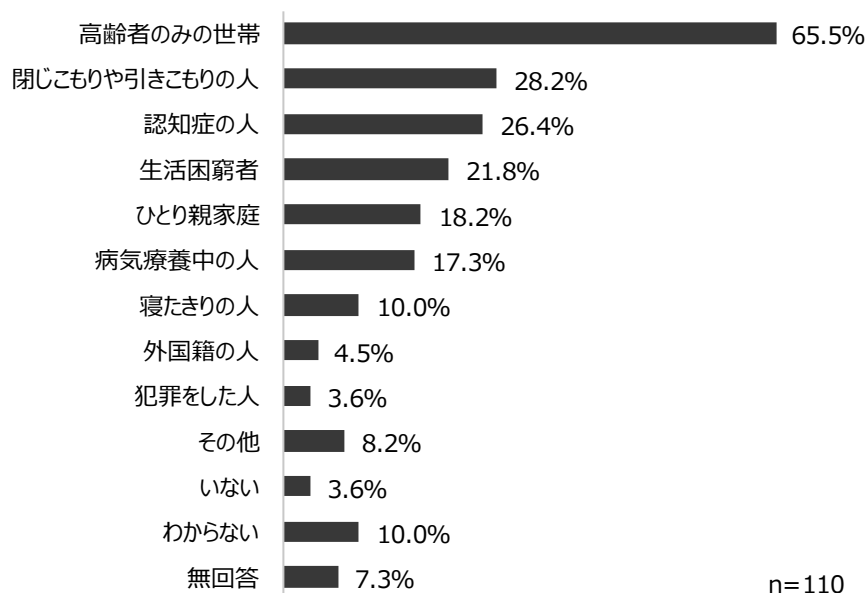
「メンバーなどによる口コミ」という回答が最も多く50.9%、次いで、「チラシやパンフレットの配布（31.8%）」、「市や社会福祉協議会の広報誌（27.3%）」、「ホームページ（14.5%）」の順で回答が多くなっています。「その他」の回答としては、「団体の広報誌の発行」が多く挙げられています。



問3 活動を通して見える地域の状況について

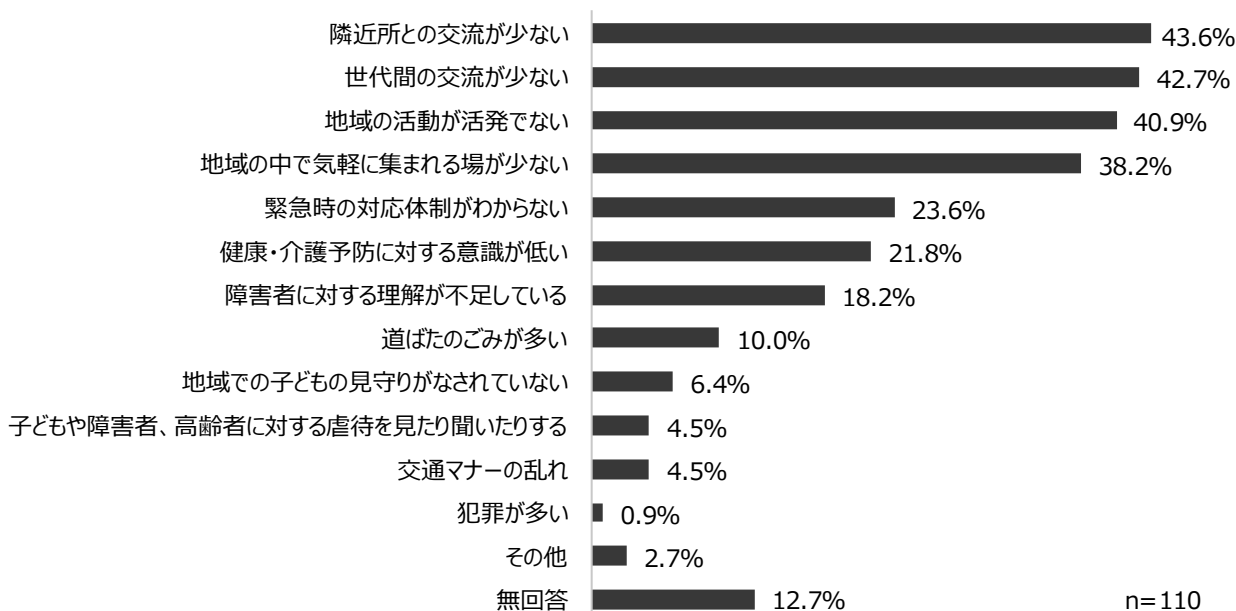
(15) 活動する中で、地域の中に次のような見守り等支援が必要な人や、気にかかる人（何らかの課題を抱えている人）がいますか(複数回答)

「高齢者のみの世帯」という回答が最も多く65.5%、次いで、「閉じこもりや引きこもりの人（28.2%）」、「認知症の人（26.4%）」、「生活困窮者（21.8%）」、「ひとり親家庭（18.2%）」、「病気療養中の人（17.3%）」、「寝たきりの人（10.0%）」の順で回答が多くなっています。



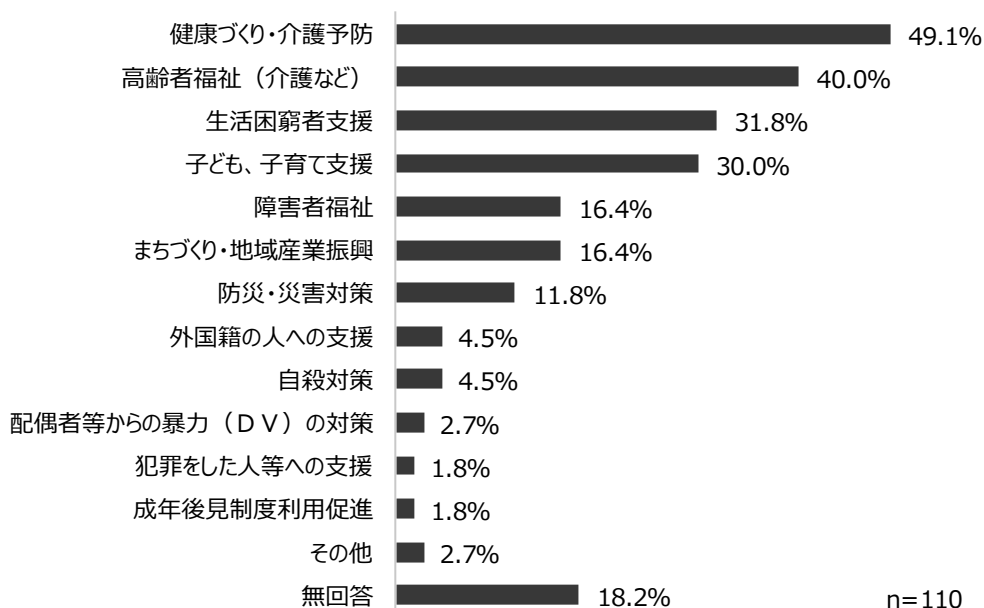
(16) 普段活動されている中で、地域の中での問題点・不足していると思うものはなんですか。(複数回答)

「隣近所との交流が少ない」という回答が最も多く43.6%、次いで、「世代間の交流が少ない(42.7%)」、「地域の活動が活発でない(40.9%)」、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない(38.2%)」、「緊急時の対応体制がわからない(23.6%)」、「健康・介護予防に対する意識が低い(21.8%)」、「障害者に対する理解が不足している(18.2%)」、「道端のごみが多い(10.0%)」の順で回答が多くなっています。



(17) 新型コロナウイルスの流行によって、どのような分野のニーズが増えたと感じますか(複数回答)

「健康づくり・介護予防」という回答が最も多く49.1%、次いで、「高齢者福祉(介護など)(40.0%)」、「生活困窮者支援(31.8%)」、「子ども、子育て支援(30.0%)」、「障害者福祉(16.4%)」、「まちづくり・地域産業振興(16.4%)」、「防災・災害対策(11.8%)」の順で回答が多くなっています。



(18) 新型コロナウイルスの流行によって、活動を行う上でどのような問題や制約がありましたか

活動自体の自粛・中止
<ul style="list-style-type: none">■ 地域行事、イベントなどの活動自粛、中止。■ 自主的活動ができない。■ 施設ボランティアが中断された。■ 研修の機会が減った。■ 介護保険サービスにおいて、利用控え、外出訓練・屋内行事の制限があった。■ 地区の祭りが3年間で中止になったことにより、祭礼を通して年齢を超えた交流や、地区内の人同士の交流が減った。■ 活動が制限され、一同に集まって会議等ができず、文章のみの一方的な情報提供となった。■ 2～3年活動を自粛していると、住民自治協議会の意識が薄れてしまう。■ 外出や行事が制限され、利用者のストレス発散ができなくなっている。
活動場所の制限
<ul style="list-style-type: none">■ 練習場所の確保が難しかった。活動の場所が少なくなった（制限された）。■ これまで借りていた会場が借りられなくなり、活動できる場所がなくなった。
活動内容の制限
<ul style="list-style-type: none">■ 外出（車での移動）ができなくなり、活動の範囲が狭くなった。■ 高齢者宅の訪問は短時間になっている。■ 会話の少ない最低限の見守りになってしまった。■ 給食サービスは手作りのものを中止した。
作業・労力負担の増加
<ul style="list-style-type: none">■ 電車など公共交通機関を使う代わりに、マイカーで行くことになり大変であった。■ 必要な感染対策はしていたが、過剰な感染対策を求められ、業務と同時進行で行う職員が疲弊した。■ 高齢者は耳の遠い方もおり、大声での会話になってしまうこと。■ 感染予防対策の業務が増え、また、活動内容も大きく変わったため職員の負担が増えているが、職員の人数を増やすことは困難な状況にある。■ 職員および利用者に係る感染予防対策の身体的、精神的負担が増加した。■ 感染者、濃厚接触者が発生した際、アナウンスや定期的なPCR検査など、普段の活動にはない作業や行動が必要になった。また、そのために人件費が増加したこと、利用者数の制限から報酬が減少し、経営的にも大きな負担を強いられた。■ 一つ一つの物の消毒、受入者の消毒、換気、検温など作業が煩雑になり、費用もかかる。■ クラスタ状態になっても園児の受入れをしなければならず、職員の確保（体制）が困難であった。
収入の減少
<ul style="list-style-type: none">■ 様々な制限・制約のために事業所のサービス利用が抑えられ、事業収入が減少した。■ 人形劇公演は、練習や制作はできたが、公演依頼数が極端に減少してしまった。■ 地産地消の材料を用いて自前で調理していた配食サービスを外注することになったため、単価が上がり、運営に苦労している。
その他
<ul style="list-style-type: none">■ マスクを着用した状態での聴覚障害者とのコミュニケーションに困難がある（口話・口形、表情など、手話において必要な部分に弊害が出る）。■ 通所、ショートステイが営業休止している間も在宅での生活が続いているため、相談支援が間に入り営業再開までの代替調整等を行ってきたが、それは間接的支援の扱いとされ、行政の処遇改善には該当しないことになったこと。

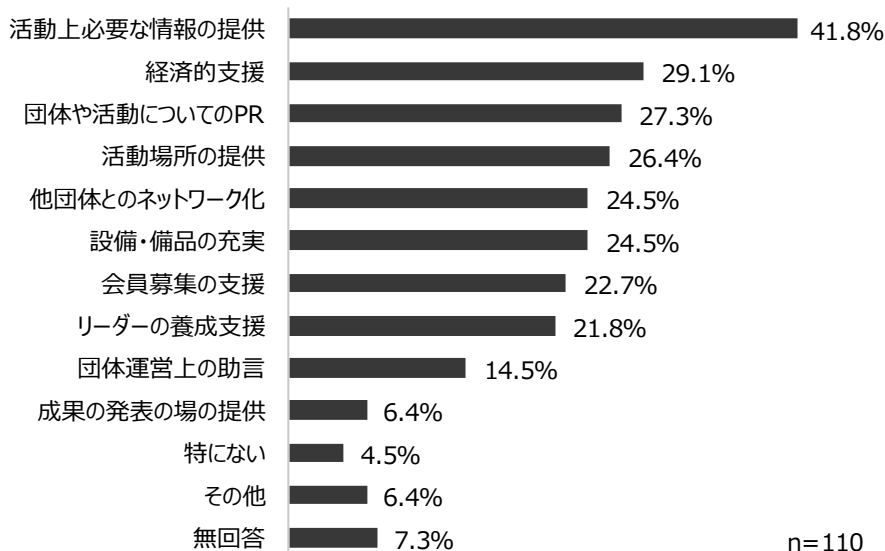
(19) コロナ禍で貴団体が活動を続けていく上で、香取市にどのような支援を求めますか

活動場所に関すること
<ul style="list-style-type: none">■ 公民館、コミュニティセンター等、地域の人たちがすぐに使える場所の確保、提供。■ 練習場所として、倉庫と練習が同じ場所で駐車場がある所を望んでいる。閉校した学校の活用を強く望んでいる。■ 地区の施設を利用する際、どのような条件があるのか各地区に周知してほしい。■ 地区に活動できる場がほしい。小さい集会所はあるが、大倉地区全体として活動できる場がないので困っている。
情報提供に関すること
<ul style="list-style-type: none">■ 香取市におけるコロナの感染の正確な情報（場所、人数等）が少ない。どこで何が起きているのか分からない。■ オミクロン株はエアロゾルが関係しているため、換気の重要性を強調していただきたい。■ コロナ禍で情報が少ない。活動に対するアドバイスが少ない。■ 各団体別ではなく情報の共有化をしてほしい。
物品の貸出・提供に関すること
<ul style="list-style-type: none">■ 中型車の貸し出し、または使用。■ 感染対策にかかる物品（マスク、石鹸、消毒液、パーテーション等）の購入支援。■ 家庭内で健康増進の手助けとなる物品や資料の配布。■ 全公共施設における Wi-fi の設置。
資金面の支援に関すること
<ul style="list-style-type: none">■ 職員確保に向けた補助金などがあればありがたい。■ 現状の財政支援の継続をお願いしたい。■ 自前で空気清浄機を購入したが、補助金（助成金）があるとよいと思った。■ 事業収入が大幅に減少し、事業の継続が困難。事業への公費負担の増額を求める。■ 練習にかかる部屋の利用料金を援助してほしい。
関係機関の連携に関すること
<ul style="list-style-type: none">■ 各団体との連携や協力体制づくりに向けての働きかけ、会議の開催。■ 行政の横のつながり、連携を図ってほしい（市役所、教育委員会、保健所、地域包括支援センターなど）。■ 医療、福祉、介護関係の専門職の方にも定期的に顔の見える関係が築けるようサポートしていただけると、住民の安心につながると思う。■ コロナ対策も含めて災害対策にかかる相談支援業務に関し、官民共同で動いていけるような仕組みが必要だと思う。
その他
<ul style="list-style-type: none">■ 知的障害者や精神障害者がコロナに罹患した際の入院先を優先的に提供してほしい。■ 患者さんをすぐに受け入れてくれる病院がない。■ 一定基準の感染対策下での制限緩和の号令またはガイドラインを発表してほしい。■ どのような形で活動していくことが可能なのか、具体的に教えてほしい。■ 活動方法についてはそれぞれの団体に対応を任せるといった形だったが、感染対策や通いの場での注意事項等について運営スタッフへの研修や交流会があったらよいと思った。■ 香取市職員の協力、ボランティアとしての活動。■ まずはどのような活動をしているか実際に見てほしい。その上で、香取市にどのような支援ができるのか検討していただきたい。

問4 今後の活動について

(20) 貴団体が活動をしていく上で市に望むことはどのようなことですか(複数回答)

「活動上必要な情報の提供」という回答が最も多く41.8%、次いで、「経済的支援（29.1%）」、「団体や活動についてのPR（27.3%）」、「活動場所の提供（26.4%）」、「他団体とのネットワーク化（24.5%）」、「設備・備品の充実（24.5%）」、「会員募集の支援（22.7%）」、「リーダーの養成支援（21.8%）」、「団体運営上の助言（14.5%）」の順で回答が多くなっています。



(21) 今後、貴団体として行政との協働でどのようなことに取り組めるとお考えですか

イベント・行事の開催に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ お祭りやイベントへの協力。 ■ 社会福祉協議会の行事には積極的に協力していきたい。
人材育成に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 介護予防、介護方法等の勉強会。 ■ 介護人材の創出。 ■ 人材育成の場として、高齢者の方々が生涯大学校で学び、卒業後に地域活動の担い手としてリーダーシップを発揮してくれるようなシステムづくりを希望する。
高齢者の福祉に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 高齢者の健康や生きがいづくりなど、高齢者に対する支援活動。 ■ 独居高齢者の見守り。 ■ 介護保険制度を利用していない独居の高齢者宅への安否確認など、訪問活動をするための人材の派遣。 ■ 通院や買い物などの外出支援に関する環境の提供（付添人、車など）。
障害者の福祉に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害者に対するイベントの参加への協力。 ■ 聴覚障害者が不自由なく社会参加するための制度の推進。

<p>子ども・子育て支援に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 子どもの見守り、絵本の読み聞かせなど、子育て支援にかかる活動。 ■ 要支援、見守りが必要とされている子どもが増え、保育園に求められる事柄が増える中、うまく子育て支援がまわっていけるよう行政の支援を希望する。 ■ 子育て支援として、生涯学習課から講演依頼を受けている。今後も学校教育課、子育て支援課等々と連携していきたい。 ■ 少子化対策、子育て支援、障害がある親へのペアレントトレーニング。 ■ 通所介護事業所としての営業終了後に子ども食堂としての利用、見守りが必要なひとり親世帯の子どもの放課後クラブとしての場所の活用。 ■ 子ども食堂の開設の支援。
<p>災害対策に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 災害発生時の受入れ対応。 ■ 災害時の高齢者への支援。 ■ 災害時に要支援者の円滑な避難誘導や安否確認ができるよう、情報共有を図っていきたい。
<p>地域福祉全般に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域ニーズに合わせた福祉施策の検討の場があれば、協議に参画させていただき具体的な検討ができる。 ■ 地域交流センター事業についてはニーズの高さを感じている。このような事業を行政がバックアップしてくれるとありがたい。 ■ 絵本や紙芝居等を用いて、防犯や健康づくりの啓発活動などお手伝いできたらよいと考えている。特に子どもへの性犯罪の防止は重要と考える。
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 市の考えに沿って、協力の要望があれば取り組むこととしている。 ■ まちづくり協議会への加入に伴い、活動範囲を広げていきたい。 ■ 現状の協力体制を維持しながら、他地域の工夫やアイデアの情報提供を受けられたらよい。 ■ イベント等への看護師の派遣。 ■ 公園、広場等の環境美化。 ■ 伝承文化の維持。 ■ 活動場所の確保。ボランティア団体には無償で提供できるようにしてもらいたい。 ■ 団体の方々も仕事と両立で活動している方が多い。行政も地域と一緒に活動してほしい。

「第3次香取市地域福祉計画」
策定に向けたアンケート調査報告書

発行：香取市

発行年月：令和5年（2023年）3月

編集：香取市 福祉健康部 社会福祉課

〒287-8501 千葉県香取市佐原口2127番地

電話：0478-50-1209